## 浸食深さの設定方法

土石流に関する基礎調査調書のデータを用いて、浸食深を渓流長で加重平均したものを 使用。ただし、浸食深データが存在しない場合、近傍地区の平均値を使用。

## ● 計算方法

- 1. 基礎調査調書の様式より、「渓流長 L」「平均侵食深 De」を整理
- 2. 土砂災害警戒区域ごとに、「(A) 渓流長」「(B) 渓流長×侵食深」を集計
- 3. (B)/(A)により、渓流長で加重平均した浸食深を算出

## 表 浸食深さの計算例

調査地点 番号	谷次数	渓流長 L(m)	平均浸食深 De(m)	渓流長×浸食深
S-5	0 次谷	347	1.0	347
S-2	1 次谷	303	0.5	151. 5
S-3	2 次谷	573	0.5	286. 5
S-4	3 次谷	260	0.5	130
合計		(A) 1, 483		(B) 915

渓流長で加重平均した浸食深= (B)/(A) = 915/1,483 ≒ 0.7m (0.1m 単位で切り上げ)

## 表 基礎調査調書の様式の例

土石流区域調書

渓流の位置	<u> </u>	渓流番号			渓流名			所在地			
想定区間番号	-			施設効果を考慮した		6870		基準地点までの想定区間長(m)		1.400	
	1		侵食可能土砂量 (m <sup>3</sup> )		0370		基準地点までの認定区间長(m)		1,400		
想定区間内の 侵食可能土砂量	調査地点番号	谷次数	渓 流 長	平均侵食幅	平均侵食深	侵食可能断面積		砂防えん堤	0	基	
	調旦地無田与	古 久 数	L (m)	B (m)	De (m)	Ae (m²)	型定区間内の 対策施設	治山ダム	1	基	
	S-1	0 次 谷	264	11.0	1.0	11.0		山腹工	0	箇所	
	S-2	1 次 谷	303	5.0	0.5	2.5		床固工	0	基	
	S-3	2 次 谷	573	8.0	0.5	4.0		導流工	0	箇所	
	S-4	3 次 谷	260	11.0	0.5	5.5		渓流保全工	0	箇所	
		4 次 谷						その他施設	0	基	
想定土石流流出区間	\ ×		侵食可能土砂量(m³)		7	7380		対策施設総効果量(m <sup>3</sup> )	510		
	^		(施設効果は考慮せず)					/1米/地区やの別末里(III /			
想定区間番号	2		施設効果を考慮した		7090		************		1 102		
想定区間内の侵食可能土砂量			侵食可能土砂量(m³)				A				
	調査地点番号 谷 次 数	谷次数	渓 流 長	平均侵食幅	平均侵食深	侵食可能断面積	Ⅱ 渓流∮	長 L、平均侵	食深 De	・を整理	
		L (m) 347	B (m)	De (m) 1.0	Ae (m²) 9 0	12 (1)102	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	20,71. 20	· CIL -		
	S-5	0 次 谷	303	5.0	0.5	2.5		床固工	0		
	S-2 S-3	1 次 谷 2 次 谷	573	8.0	0.5	4.0	想定区間内の 対策施設		0	基 箇所	
	S-4	2 次 谷	260	11.0	0.5	5.5		等派工 渓流保全工	0	箇所	
	5-4	3 次 台 4 次 谷	200	11.0	0.0	0.0		その他施設	0	基基	
		4 次 廿	/2 ^ - 4	1 Table 1 (3)				ての旧池放			
想定土石流流出区間 〇		侵食可能土砂量(m³) (施設効果は考慮せず)		7600			対策施設総効果量(m³) 510		10		
			(地政初末)	よう思ピリ/							
想定区間番号			施設効果	を考慮した							
			侵食可能土砂量(m³)				基準地点までの想定区間長(m)		1		
想定区間内の 侵食可能土砂量	調査地点番号	谷 次 数	渓流長	平均侵食幅	平均侵食深	侵食可能断面積		砂防えん堤		基	
			L (m)	B (m)	De (m)	Ae (m²)		治山ダム		基	
		0 次 谷	(11)	()	()	(,	1	山腹工		箇所	
		1 次 谷					***	床固工		基	
		2 次 谷					想定区間内の 対 策 施 設	導流工		箇所	
		3 次 谷					刈 束 胞 設	渓流保全工		箇所	
		4 次 谷						その他施設		基	
			侵食可能土砂量(m³)		·		ľ	2			
想定土石流流出区間	1							対策施設総効果量(m <sup>3</sup> )			